

心強い
町民によるまちづくりの力

先の町長選挙におきまして、町民の皆さまの「信任」をいただき、3期目の町政を担わせていただくことになりました。

2期8年を振り返りますと、1期目は「財政再建」を最重要課題として取り組み、ひっ迫した町財政、単独自立の道を選んだまちの存続など、再建に向け町民の皆さまには固定資産税や各種使用料などの負担増をお願いし、予定されていたさまざまな事業を当分の間先送りする、身の丈に合った財政運営を行うなど、町全体で再建に向けた取り組みを行いました。

そして2期目は、引き続き「財政健全化」を目指しました。平成

■景山町長就任あいさつ

「安心して心豊かに暮らせるまちづくり」
「若者が定住できるまちづくり」に取り組む



22年度には国が示す財政健全化判断比率のうち、借金の返済額が多く資金繰りの危険度を示す「実質公債費比率」が、町が定めた財政健全化計画より2年早く下回りました。多くのご理解とご協力をいただいた成果であると考えます。

皆さまには、「我慢」を押し付けた結果となりましたが、町に頼らず『自分たちのできることは自分たちでしよう』という、町民による地域の活性化や見守りの取り組みが盛んになり喜んでいます。

今後も財政推計では、単年度赤字が見込まれていますが、依然、厳しい財政運営を迫られることは間違いありません。

多くの課題に立ち向かう 3期目の取り組み

過疎・高齢化が進む本町は、平成22年国勢調査による人口は3745人、65歳以上の高齢化率は42%でしたが、平成26年2月1日現在で、人口3535人、高齢化率は43・5%となっています。

3期目の最重要課題は、子育て

支援や若者定住、高齢化に対応するための医療・保健・福祉の連携の3点です。

まず、子育て支援や教育の振興については、保小中一貫教育をはじめ、町図書館および保育所、小中学校の図書館に司書を配置し、子どもたちが本に触れる機会を増やしたり、蔵書の充実を図ったほか、平成25年度から行っている、1歳から3歳までの誕生日を迎える子どもの保護者に、3万円を交付する子育て支援金支給事業も引き続き行い、保育料も負担軽減策を考えています。

また、新年度に「日野高校魅力化コーディネーター」（仮称）を日野郡3町の負担で配置し、地域と共に生きる学校となるよう取り組みます。

続いて、若者の定住促進については、過疎・少子高齢化に歯止めをかけるためにも、一人でも多くの若者が町内に住んでいただけるよう新たな発想で取り組みます。

IJターンで町に住みたい、あるいはすでに住んでいる人に意見を伺い、空き家情報の提供や国・県・町の支援制度の紹介など、必

要な支援策の検討を進めます。

また、国の「地域おこし協力隊」制度を活用し、現在2人が地域活動に従事しています。さらに募集を行い、多くの若者に定住していただけるよう取り組みます。

そして、高齢化に対応するため医療・保健・福祉の連携については、保健、医療、介護、生活支援など、地域のさまざまな仕組みや資源などの支援を円滑に提供できる体制を整えることが必要であると考えます。

特に、現在、介護保険の見直しが行われており、在宅医療と介護の連携が大きく取り上げられています。地域の中核病院である日野病院と町健康福祉センター、町地域包括支援センターがより密接に連携し、検診事業や予防接種、在宅医療、居宅介護、介護予防などの支援体制を作り上げることが、安心して安全に暮らせる要になると思います。

皆さまが住み慣れた地域で、住み慣れた家で、健康で安心安全に暮らせるまちにすることが、ひいては若者にも暮らしやすいまちづくりにもつながります。

このほか、農林業の振興策では、町内で生産されるおいしいコシヒカリや特別栽培米の消費拡大、担い手農家への支援、中山間地域の農地保全、耕作放棄地防止の取り組み、公共事業では、緊急性・安全性を考慮しながら橋の延命化、町道改良などを行っていきます。

さらなる住民主体のまちづくりに向けて

これまで述べてきた多くの課題解決に向け、財政再建の一環として6年間置いていなかった副町長を4月1日から置くこととしています。私を先頭に、副町長、教育長、職員が一体となり、課題に取り組めます。

皆さんの目線に立ち、住民生活の根幹である「安心して心豊かに暮らせるまちづくり」「若者が定住できるまちづくり」を念頭に据え、住民一人一人が行政に参画し、一体となって創意工夫を凝らしながら、開かれた町政を推進していきます。4年間、ご理解とご協力をお願いします。